

---

# 短単位辞書マニュアル

ver.1.0 (2004-03-24)

山口昌也, 木村睦子, 西川賢哉, 石塚京子, 小椋秀樹(国立国語研究所)

---

## 目次

- [1. はじめに](#)
  - [2. 短単位辞書](#)
    - [2.1 概要](#)
    - [2.2 データの形式](#)
      - [「短単位辞書」要素](#)
      - [「辞書項目」要素](#)
      - [「基本形」要素](#)
      - [「代表形」要素](#)
      - [「代表表記」要素](#)
      - [「品詞」要素](#)
      - [「活用型」要素](#)
      - [「活用形」要素](#)
      - [「その他の情報1」要素](#)
      - [「その他の情報2」要素](#)
      - [「用例集」要素](#)
    - [2.3 実例](#)
      - [例1: 名詞「アイシヤ」](#)
      - [例2: 動詞「アエル」](#)
      - [例3: 「ありや」\(特殊な語形の辞書項目の例\)](#)
  - [3. 活用表](#)
    - [3.1 概要](#)
    - [3.2 解説](#)
      - [3.2.1 口語動詞](#)
      - [3.2.2 文語動詞](#)
      - [3.2.3 形容詞](#)
      - [3.2.4 接尾辞](#)
      - [3.2.5 助動詞](#)
    - [3.3 データ形式](#)
      - [活用表\(conjtable 要素\)](#)
      - [活用型\(conj 要素\)](#)
      - [活用形\(form 要素\)](#)
      - [語例\(example 要素\)](#)
      - [語幹\(base 要素\)](#)
-

---

## 1. はじめに

本マニュアルでは、『日本語話し言葉コーパス』の短単位辞書と活用表について説明する。短単位辞書は、『日本語話し言葉コーパス』から、短単位をその用例とともに収集したものである。活用表は、短単位辞書に記載されている活用語の活用型、活用形を定めたものである。

短単位辞書を作成した目的は、次のとおりである。

- 自動短単位解析システム用の辞書として利用すること
- 自動短単位解析対象の転記テキストに含まれる短単位を実際の用例とともに列挙すること

短単位辞書に収録される短単位は、大きく分けて、次の二種類の転記テキストから収集した。

1. 人手短単位解析対象の転記テキスト(人手解析データ)
2. 自動短単位解析対象の転記テキスト(自動解析データ)

(1) から収集した辞書項目は、『日本語話し言葉コーパス』の人手短単位解析結果を元に、短単位解析システムで利用できるよう、活用形、活用型の情報を詳細化している。(1) に含まれる短単位はすべて収録している。

一方、(2) から収集した辞書項目については、自動短単位解析結果を人手修正する過程で収集した短単位である。

本マニュアル、短単位辞書の使用にあたっては、次のことに注意されたい。

- 本マニュアルで提示する活用表は、あくまでも、短単位解析システム用に規定したものである。『日本語話し言葉コーパス』に含まれる、短単位・長単位の手解析データの品詞体系を定めるものではない。
  - 本辞書は、『日本語話し言葉コーパス』に含まれる短単位を時間の許す範囲で収集したものであり、すべての短単位を網羅しているわけではない。
-

## 2. 短単位辞書

### 2.1 概要

短単位辞書の辞書項目には、次の情報が含まれる。このうち、\* の情報については、活用表で対応できない、特殊な語形の辞書項目だけに付与される。

- 基本形(代表形に対応する転記テキストの基本形部分)
- 代表形(辞書項目の見出し)
- 代表表記(代表形を漢字、ひらがななどで表記したもの)
- 品詞
- 活用型
- 活用形(\*)
- その他の情報1(品詞の細分類に関する記述)
- その他の情報2(語形に関する記述)(\*)
- 用例(当該辞書項目に対応する用例)

1章で述べたように、本辞書は、短単位解析システム用の辞書として利用されることを想定している。そのため、次のような特徴を持っている。

- 『日本語話し言葉コーパス』の転記テキストに則した基本形が付与される。
- 短単位の人手解析データの品詞体系と比較して、活用型、活用形が詳細化されている。
- 活用表で対応できない、特殊な語形を持つ短単位については、その語形を基本形とする独立の辞書見出しとして収録している。

また、各辞書項目には、用例が付与されている。用例を付与した目的は、個々の辞書項目に対応する短単位が『日本語話し言葉コーパス』のいなかの文脈で使われているかを明示するためである。これは、自動短単位解析データだけに含まれる短単位の用例を参照したいときなどに、特に有用であると考えられる。なぜならば、自動短単位解析データには、解析誤りを含む可能性があり、必ずしも正しい用例を参照できるとは限らないからである。

なお、本章では、短単位辞書の形式についてのみ記述する。短単位の代表形、代表表記、品詞体系についての解説は、『日本語話し言葉コーパス』の形態論情報の概要(pos.pdf)を参照されたい。活用型と活用形については、短単位解析システム用に詳細化がなされているため、次章において、詳しく説明することにする。

### 2.2 データの形式

短単位辞書は、XML で記述される。短単位辞書の XML 文書は、次の DTD で規定される。

#### 「短単位辞書」要素

- 「短単位辞書」要素は、一つ以上の「辞書項目」要素を含む。
- 属性 version は、短単位辞書の版を表す。
- 属性 release\_date は、短単位辞書のリリース年月日を表す。
- 属性 name は、短単位辞書の名前を表す。

```
<!ELEMENT 短単位辞書 (辞書項目+)>
<!ATTLIST 短単位辞書
  version CDATA #REQUIRED
  release_date CDATA #REQUIRED
  name CDATA #REQUIRED
>
```

#### 「辞書項目」要素

- 「辞書項目」要素は、「基本形」「代表形」「代表表記」「品詞」「活用型」「活用形」「その他の情報1」「その他の情報2」「用例集」要素を含む。
- 「活用型」は、活用語だけに付与される。

- 「活用形」要素, 「その他の情報2」要素は, 活用表では対応できない, 特殊な語形の辞書項目のみ付与される。

<!ELEMENT	辞書項目	(基本形, 代表形, 代表表記, 品詞, 活用型?, 活用形?, その他の情報1, その他の情報2?, 用例集)>
-----------	------	--------------------------------------------------------------------

### 「基本形」要素

- 「基本形」要素は, 「代表形」要素に対応する転記テキストの基本形を表す。表記は, 転記テキストに準ずるが, 転記テキストに付与されている各種のタグは, 取り除いてある。
- 活用語の場合は, 終止形で表記する。
- 複数の表記が存在する場合を考慮し, li 要素で列挙する。

<!ELEMENT	基本形	(li+)>
<!ELEMENT	li	(#PCDATA)>

### 「代表形」要素

- 辞書項目の見出し
- 詳細は, 「『日本語話し言葉コーパス』の形態論情報の概要」を参照のこと。

<!ELEMENT	代表形	(#PCDATA)>
-----------	-----	------------

### 「代表表記」要素

- 代表形を漢字, アルファベットなどで表記したもの
- 詳細は, 「『日本語話し言葉コーパス』の形態論情報の概要」を参照のこと。ただし, 自動解析データにしか現れない短単位の代表表記については, 人手解析データの代表表記と異なり, 厳密な表記基準を定めておらず, 同一表記の代表形を分別できるように定めているだけである。

<!ELEMENT	代表表記	(#PCDATA)>
-----------	------	------------

### 「品詞」要素

- 詳細は, 「『日本語話し言葉コーパス』の形態論情報の概要」を参照のこと。

<!ELEMENT	品詞	(#PCDATA)>
-----------	----	------------

### 「活用型」要素

- 本マニュアル「3. 活用表」を参照のこと
- この要素は, 活用語の辞書項目にしか存在しない。

<!ELEMENT	活用型	(#PCDATA)>
-----------	-----	------------

### 「活用形」要素

- 本マニュアル「3. 活用表」を参照のこと
- この要素は, 特殊な語形に対応する辞書項目にしか存在しない。

<!ELEMENT	活用形	(#PCDATA)>
-----------	-----	------------

## 「その他の情報1」要素

- 品詞の細分類
- 詳細は、『日本語話し言葉コーパス』の形態論情報の概要を参照のこと。

```
<!ELEMENT その他の情報1 (#PCDATA)>
```

## 「その他の情報2」要素

- 語形に関する情報
- この要素は、特殊な語形に対応する辞書項目にしか存在しない。
- 詳細は、『日本語話し言葉コーパス』の形態論情報の概要を参照のこと。

```
<!ELEMENT その他の情報2 (#PCDATA)>
```

## 「用例集」要素

- 辞書項目に対する用例集
- 0個以上の用例を含む(今回配布するデータでは、最大一つ)。
- 用例には、前文脈、後文脈、活用形、その他の情報2が付与される。
- 前文脈、後文脈の長さは、15 短単位である。短単位間は、空白で区切ってある。表記は、転記テキストの基本形に基づく。
- 「講演ID」要素:当該短単位が含まれる転記テキストの講演ID
- 「転記情報」要素:当該短単位が含まれる転記基本単位に関する情報。詳細は、「短単位・長単位データマニュアル」を参照のこと。
- 「転記基本形」要素:当該短単位の転記テキストにおける基本形
- 「転記発音形」要素:当該短単位の転記テキストにおける発音形

```
<!ELEMENT 用例集 (用例*)>
<!ELEMENT 用例 (講演ID, 転記情報,
  前文脈, 転記基本形, 後文脈,
  転記発音形,
  活用形?, その他の情報2)>
<!ELEMENT 講演ID (#PCDATA)>
<!ELEMENT 転記情報 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 転記基本形 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 前文脈 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 後文脈 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 転記発音形 (#PCDATA)>
```

## 2.3 実例

### 例1:名詞「アイシャ」

```
<辞書項目>
  <基本形><li>愛車</li></基本形>
  <代表形>アイシャ</代表形>
  <代表表記>愛車</代表表記>
  <品詞>名詞</品詞>
  <その他の情報1></その他の情報1>
  <用例集>
    <用例>
      <講演ID>S02M1715</講演ID>
      <転記情報>0301 00692.003-00695.787 L:-009-001</転記情報>
      <前文脈>いうことは(Fあ)もう特に考えて今後は
        もう本当に自分の</前文脈>
```

<転記基本形>愛車</転記基本形>  
<後文脈>を 傷付 け ない よう に 破 壊 し ない よう に え え  
気 を 付 け たい</後文脈>  
<転記発音形>アイシャ</転記発音形>  
<その他の情報2></その他の情報2>  
</用例>  
</用例集>  
</辞書項目>

## 例2:動詞「アエル」

<辞書項目>  
<基本形><li>会える</li></基本形>  
<代表形>アエル</代表形>  
<代表表記>会える</代表表記>  
<品詞>動詞</品詞>  
<活用型>ア行下一段 2</活用型>  
<その他の情報1></その他の情報1>  
<用例集>  
<用例>  
<講演ID>S00F0173</講演ID>  
<転記情報>0025 00066.183-00067.400 L:-003-001</転記情報>  
<前文脈>貨幣 も 拒み 昔 ながら の 伝 統 を 守 り ながら 暮 ら し  
て いる 人 々 に</前文脈>  
<転記基本形>会える</転記基本形>  
<後文脈>(F え) そんな 話 を 本 で 読 ん だ 私 は た ま ら な く  
こ の 土 地 へ</後文脈>  
<転記発音形>アエル</転記発音形>  
<活用形>終止形</活用形>  
<その他の情報2></その他の情報2>  
</用例>  
</用例集>  
</辞書項目>

## 例3:「ありゃ」(特殊な語形の辞書項目の例)

<辞書項目>  
<基本形><li>ありゃ</li></基本形>  
<代表形>アル</代表形>  
<代表表記>有る</代表表記>  
<品詞>動詞</品詞>  
<活用型>ラ行五段 1</活用型>  
<活用形>連用形 1</活用形>  
<その他の情報1></その他の情報1>  
<その他の情報2>融合</その他の情報2>  
<用例集>  
<用例>  
<講演ID>S00M0188</講演ID>  
<転記情報>0129 00345.103-00346.379 L:-002-001</転記情報>  
<前文脈>が (D む) 後 ろ に ある よう な 場 所 で (F あーのー)  
(D んん) 予 備 校 な ん か が</前文脈>  
<転記基本形>ありゃ</転記基本形>  
<後文脈>し ない と 浪 人 な ん だ け ど も で し ょ う が ない  
か ら 東 松 山</後文脈>  
<転記発音形>アリャ</転記発音形>  
<活用形>連用形 1</活用形>  
<その他の情報2>融合</その他の情報2>

</用例>  
</用例集>  
</辞書項目>

---

## 3. 活用表

### 3.1 概要

本章では、活用表に関する解説とデータ形式を示す。

ここで示す活用表は、短単位辞書中の活用語に対する活用語形を規定するものである。主として、短単位解析システムで利用することを想定して作成した。そのため、人手解析用に設計された人手解析データの活用品型、活用形よりも詳細化されている。

人手解析データの活用品型、活用形と異なるのは、次の点である。

- 後続する短単位により、未然形、連用形を細分化した。「未然形1」のように1～4の数字で細分化を表示する。この数字を除去したものが人手解析データの活用形に対応する。
- 活用品型は、「力行五段1」、「力行五段2」といった形式で、細分化している。活用形と同様、末尾の数字を除去したものが人手解析データの活用品型に対応する(なお、人手解析データでも細分化されている「文語形容詞型1～3」は除く)。

DVD に同梱される活用表は、計算機での利用の便を考慮し、XML 形式で記述した。また、活用表全体を閲覧できるよう、3.3 に表の形でも示すことにする。

### 3.2 解説

#### 3.2.1 口語動詞

- 活用品型
  - X行五段
  - X行上一段
  - X行下一段
  - 力行変格
  - サ行変格
  - ザ行変格
- 活用形
  - 未然形1: 助動詞ナイに連なる形
  - 未然形2: 助動詞ウ・ヨウに連なる形
  - 未然形3: 助動詞レル・ラレルに連なる形
  - 未然形4: 助動詞ズに連なる形
  - 連用形1: 助動詞マスに連なる形
  - 連用形2: 助動詞タ、接続助詞テに連なる形
  - 終止形: 文末、または、引用の助詞ト、助動詞ダ・デスに連なる形
  - 連体形: 名詞、または、準体助詞ノに連なる形
  - 仮定形: 接続助詞バに連なる形
  - 命令形: 文末、または、引用の助詞トに連なって命令を表わす形
  - 語幹
- 注記
  - 「生ずる」「生じる」のように、「ずる」、および、「じる」語尾の付きうる語については、通常、別語として扱い、それぞれサ行変格、ザ行上一段と称しているが、本活用表では、この種の動詞を一つにまとめて、一類を立て、ザ行変格と呼ぶ。代表形は「～ずる」とするが、活用語尾としては、サ変と上一段の両方の語形を認める。
  - 未然形が四つに分かれるのは、サ変とザ変のためであり、他の動詞においては、一ないし二で足りる。
  - 語尾の一部が括弧で括ってあるのは、語幹と重なる部分であり、語幹が漢字表記されると、機械的に語尾として認定できるようにしている。また、仮名表記の場合も文節の先頭に来るなど、語尾と呼ぶにふさわしくないふるまいをする。ただし、見出し語は、かなり限られる。
  - 一つの欄に複数の語形が入っている場合があるが、これは機能的には同じものである。
  - データが話し言葉であるから、実際には崩れた形も現われる。特に多いのは、未然形、終止形、連体形語尾が撥音になる場合であるが、これらは活用表によらず、個別に辞書に記載することで対処する。その場合には、「その他の情報2」の欄に「撥音便A」「促音便A」などと記入する。Aが付くのは、イレギュラーということである。



分からない→分かんない, 集めるのは→集めんのは, 歩いて→歩って

活用型	活用作行	未然形1	未然形2	未然形3	未然形4	連用形1	連用形2	終止形	連体形	仮定形	命令形	語例
五段	カ行1	か	こ	か	か	き	い[イ音便]	く	く	け	け	書く, 動く
五段	カ行2	か	こ	か	か	き	っ[促音便]	く	く	け	け	行く
五段	ガ行	が	ご	が	が	ぎ	い[イ音便]	ぐ	ぐ	げ	げ	漕ぐ, 騒ぐ
五段	サ行	さ	そ	さ	さ	し	し	す	す	せ	せ	探す, 渡す
五段	タ行	た	と	た	た	ち	っ[促音便]	つ	つ	て	て	立つ, 勝つ
五段	ナ行	な	の	な	な	に	ん[撥音便]	ぬ	ぬ	ね	ね	死ぬ
五段	バ行	ば	ぼ	ば	ば	び	ん[撥音便]	ぶ	ぶ	べ	べ	飛ぶ, 及ぶ
五段	マ行	ま	も	ま	ま	み	ん[撥音便]	む	む	め	め	沈む, 頼む
五段	ラ行1	ら	ろ	ら	ら	り	っ[促音便]	る	る	れ	れ	取る, 凍る
五段	ラ行2	ら	ろ	ら	ら	い	っ[促音便]	る	る	れ	い	いらっしゃる, なさる
五段	ワア行	わ	お	わ	わ	い	っ[促音便]	う	う	え	え	言う, 思う
上一段	ア行1	(い)	(い)	(い)	(い)	(い)	(い)	(いる)	(いる)	(い)れ	(い)ろ, (い)よ	居る, 射る
上一段	ア行2	い	い	い	い	い	い	いる	いる	いれ	いろ, いよ	強いる, 報いる
上一段	カ行1	(き)	(き)	(き)	(き)	(き)	(き)	(きる)	(きる)	(き)れ	(き)ろ, (き)よ	着る
上一段	カ行2	き	き	き	き	き	き	きる	きる	きれ	きろ, きよ	起きる, 尽きる
上一段	ガ行	ぎ	ぎ	ぎ	ぎ	ぎ	ぎ	ぎる	ぎる	ぎれ	ぎろ, ぎよ	過ぎる
上一段	ザ行	じ	じ	じ	じ	じ	じ	じる	じる	じれ	じろ, じよ	閉じる, 信じる
上一段	タ行	ち	ち	ち	ち	ち	ち	ちる	ちる	ちれ	ちろ, ちよ	落ちる, 朽ちる
上一段	ナ行	(に)	(に)	(に)	(に)	(に)	(に)	(に)る	(に)る	(に)れ	(に)ろ, (に)よ	似る, 煮る
上一段	バ行	び	び	び	び	び	び	びる	びる	びれ	びろ, びよ	伸びる, 詫びる
上一段	マ行1	(み)	(み)	(み)	(み)	(み)	(み)	(み)る	(み)る	(み)れ	(み)ろ, (み)よ	見る
上一段	マ行2	み	み	み	み	み	み	みる	みる	みれ	みろ, みよ	沁みる, 試みる
上一段	ラ行	り	り	り	り	り	り	りる	りる	りれ	りろ, りよ	降りる, 借りる

活用型	活用行	未然形1	未然形2	未然形3	未然形4	連用形1	連用形2	終止形	連体形	假定形	命令形	語例
下二段	ア行1	(え)	(え)	(え)	(え)	(え)	(え)	(え)る, (う)る	(え)る, (う)る	(え)れ	(え)ろ, (え)よ	得る, 心得る
下二段	ア行2	え	え	え	え	え	え	える	える	えれ	えろ, えよ	考える, 見える
下二段	カ行	け	け	け	け	け	け	ける	ける	けれ	けろ, けよ	受ける, 付ける
下二段	ガ行	げ	げ	げ	げ	げ	げ	げる	げる	げれ,	げろ, げよ	拳げる, 逃げる
下二段	サ行	せ	せ	せ	せ	せ	せ	せる	せる	せれ	せろ, せよ	見せる, 任せる
下二段	ザ行	ぜ	ぜ	ぜ	ぜ	ぜ	ぜ	ぜる	ぜる	ぜれ,	ぜろ, ぜよ	混ぜる, 爆ぜる
下二段	タ行	て	て	て	て	て	て	てる	てる	てれ	てろ, てよ	捨てる, 立てる
下二段	ダ行1	(で)	(で)	(で)	(で)	(で)	(で)	(で)る	(で)る	(で)れ	(で)ろ, (で)よ	出る
下二段	ダ行2	で	で	で	で	で	で	でる	でる	でれ	でろ, だよ	撫でる, 奏でる
下二段	ナ行1	(ね)	(ね)	(ね)	(ね)	(ね)	(ね)	(ね)る	(ね)る	(ね)れ	(ね)ろ, (ね)よ	寝る, 真似る
下二段	ナ行2	ね	ね	ね	ね	ね	ね	ねる	ねる	ねれ	ねろ, ねよ	重ねる, 跳ねる
下二段	ハ行	(へ)	(へ)	(へ)	(へ)	(へ)	(へ)	(へ)る	(へ)る	(へ)れ	(へ)ろ, (へ)よ	経る
下二段	バ行	べ	べ	べ	べ	べ	べ	べる	べる	べれ	べろ, べよ	述べる, 食べる
下二段	マ行	め	め	め	め	め	め	める	める	めれ	めろ, めよ	決める, 止める
下二段	ラ行1	れ	れ	れ	れ	れ	れ	れる	れる	れれ	れろ, れよ	知れる, 崩れる
下二段	ラ行2	れ	れ	れ	れ	れ	れ	れる	れる	れれ	れ, れろ, れよ	呉れる
変格	カ行	(こ)	(こ)	(こ)	(こ)	(き)	(き)	(く)る	(く)る	(く)れ	(こ)い	来る
変格	サ行	(し)	(し)	(さ)	(せ)	(し)	(し)	(す)る	(す)る	(す)れ	(し)ろ, (せ)よ	為る
変格	ザ行	じ	じ	じ, ぜ	じ, ぜ	じ	じ	じる, ずる	じる, ずる	じれ, ずれ	じろ, ぜよ	生ずる, 禁ずる

↑

### 3.2.2 文語動詞

#### ● 活用型

- 文語X行四段
- 文語X行上一段
- 文語X行上二段
- (文語X行下一段)
- 文語X行下二段
- 文語カ行変格
- 文語サ行変格
- 文語ナ行変格
- 文語ラ行変格

● 活用形

- 未然形: 口語動詞の未然形1~4の機能を併せ持つほか、助詞バが付いて、仮定を表わす。
- 連用形: 助動詞キ・ケリ・タリに連なる形
- 終止形: 文末、または、引用の助詞トに連なる形
- 連体形: 名詞に連なる形
- 已然形: 接続助詞バドが付いて、既定(順接・逆接)を表わす。
- 命令形: 文末、または、引用の助詞トに連なって、命令を表わす形
- 語幹

● 注記

- 下一段活用としては、一応「蹴る」が挙げられるが、文語といっても近世においては、四段に変わったものと思われるので、実際にはほとんど出現しない。
- 基本形、並びに、代表表記が現代仮名づかいなので、行名をどうするかが問題になる。「思う」などをワア行四段とするか、ハ行四段とするかについては、後者とした。それに合わせて、「強う(強いる)」はハ行上二段、「与う、仕う、捕らう」などはハ行下二段とした。また「植う、餓う、据う」など、元がワ行下二段活用のものをワ行としたが、これも表記上はハ行2と同じである。

活用型	活用行	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	語例
四段	カ行	か	き	く	く	け	け	書く, 行く
	ガ行	が	ぎ	ぐ	ぐ	げ	げ	漕ぐ, 騒ぐ
	サ行	さ	し	す	す	せ	せ	探す, 渡す
	タ行	た	ち	つ	つ	て	て	立つ, 勝つ
	ハ行	わ	い	う	う	え	え	言う, 給う
	バ行	ば	び	ぶ	ぶ	べ	べ	呼ぶ, 忍ぶ
	マ行	ま	み	む	む	め	め	沈む, 頼む
	ラ行	ら	り	る	る	れ	れ	取る, 遣る
上一段	ア行	(い)	(い)	(いる)	(いる)	(いれ)	(いよ)	居る, 射る
	カ行	(き)	(き)	(きる)	(きる)	(きれ)	(きよ)	着る
	ナ行	(に)	(に)	(にる)	(にる)	(にれ)	(によ)	似る, 煮る
	ハ行	(ひ)	(ひ)	(ひる)	(ひる)	(ひれ)	(ひよ)	干る
	マ行	(み)	(み)	(みる)	(みる)	(みれ)	(みよ)	見る
上二段	カ行	き	き	く	くる	くれ	きよ	起く, 尽く
	ガ行	ぎ	ぎ	ぐ	ぐる	ぐれ	ぎよ	過ぐ
	タ行	ち	ち	つ	つる	つれ	ちよ	落つ
	ダ行	じ	じ	ず	ずる	ずれ	じよ	閉ず, 恥ず
	ハ行	い	い	う	うる	うれ	いよ	強う
	バ行	び	び	ぶ	ぶる	ぶれ	びよ	伸ぶ, 詫ぶ
	マ行	み	み	む	むる	むれ	みよ	沁む, 恨む
	ヤ行	い	い	ゆ	ゆる	ゆれ	いよ	悔ゆ, 報ゆ
	ラ行	り	り	る	るる	るれ	りよ	降る, 借る
下一段	カ行	(け)	(け)	(ける)	(ける)	(けれ)	(けよ)	蹴る
下二段	ア行	(え)	(え)	(う)	(うる)	(うれ)	(えよ)	得
	カ行	け	け	く	くる	くれ	けよ	受く, 付く
	ガ行	げ	げ	ぐ	ぐる	ぐれ	げよ	拳ぐ, 遂ぐ
	サ行	せ	せ	す	する	すれ	せよ	見す, 任す
	ザ行	ぜ	ぜ	ず	ずる	ずれ	ぜよ	混ず, 爆ず

活用型	活用行	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	語例
	タ行	て	て	つ	つる	つれ	てよ	捨つ, 立つ
	ダ行	で	で	ず	ずる	ずれ	でよ	出ず, 撫ず
	ナ行1	(ね)	(ね)	(ぬ)	(ぬ)る	(ぬ)れ	(ね)よ	寝
	ナ行2	ね	ね	ぬ	ぬる	ぬれ	ねよ	重ぬ, 跳ぬ
	ハ行1	(へ)	(へ)	(ふ)	(ふ)る	(ふ)れ	(へ)よ	経
	ハ行2	え	え	う	うる	うれ	えよ	与う, 仕う
	バ行	べ	べ	ぶ	ぶる	ぶれ	べよ	食ぶ, 述ぶ
	マ行	め	め	む	むる	むれ	めよ	極む, 止む
	ヤ行	え	え	ゆ	ゆる	ゆれ	えよ	消ゆ, 見ゆ
	ラ行	れ	れ	る	るる	るれ	れよ	恐る, 崩る
	ワ行	え	え	う	うる	うれ	えよ	植う, 据う
変格	カ行	(こ)	(き)	(く)	(く)る	(く)れ	(こ)	来
	サ行	(せ)	(し)	(す)	(す)る	(す)れ	(せ), (せ)よ	為
	ザ行	ぜ	じ	ず	ずる	ずれ	ぜよ	禁ず, 存ず
	ナ行	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね	死ぬ, 去ぬ
	ラ行	ら	り	り	る	れ	れ	有り, 居り

1

### 3.2.3 形容詞

- 活用型

- 口語
- 文語1(ク活用)
- 文語2(シク活用)
- 文語3(特殊型)

- 活用形(口語)

- 未然形(助動詞ウに接続)
- 連用形1(中止)
- 連用形2(助動詞タに接続)
- 終止形
- 連体形
- 仮定形
- 語幹

- 活用形(文語)

- 未然形1(助動詞ズ・ムに接続)
- 未然形2(助詞バに連なって仮定を表わす)
- 連用形1(中止)
- 連用形2(助動詞キ・ケリに接続)
- 終止形
- 連体形
- 已然形
- 命令形
- 語幹

- 注記

- 動詞の場合も同じであるが、文語では、未然形に接続助詞「ば」が付いて、仮定を表わし、已然形+「ば」は別の意味を持つ。
- 上記の他に、連用形1のウ音便があるが、これが語幹と融合して音韻変化を生ずるので、詳細に記述するためには、行によって分ける必要がある。したがって、これは活用表に記載せず、実際に出現したものを辞書に登録した。

はやい……お/はよう、めでたい……お/めでとう、ありがたい……ありがとう、  
うれしい……うれしゅう、少ない……少のう

- 存在しない活用形には、「—」としてある。

活用型	未然形	連用形1	連用形2	終止形	連体形	仮定形	命令形	語例
形容詞型	かる	く	かつ[促音便]	い	い	けれ	—	無い, 良い, 正しい

	未然形1	未然形2	連用形1	連用形2	終止形	連体形	已然形	命令形	語例
文語形容詞型1	から	く	く	かり	し	き	けれ	かれ	無し, 良し
文語形容詞型2	しから	しく	しく	しかり	し	しき	しけれ	しかれ	悪し, 正し
文語形容詞型3	から	く	く	かり	し, かり	き	けれ	かれ	多し

### 3.2.4 接尾辞

- 接尾辞のうち、動詞性の活用をもつものには、動詞と同じ活用型が記入されている。

例：がる……ラ行五段      兼ねる……ナ行下一段

- 形容詞性の活用を持つものには、形容詞型、文語形容詞型1、文語形容詞型2などの情報が付く。

がたい、がたし、がましい、くさい、たらしい、づらい、にくい、ぼい、やすい

### 3.2.5 助動詞

- 活用型

- 助動詞の活用型を(1)口語動詞型、(2)文語動詞型、(3)口語形容詞型、(4)文語形容詞型 の四つに大別する。
- 基本的に、(2)と(4)は、純粋に文語のみの場合とし、語形や用法が混じるようなものは、口語の方に入れる。とはいえ、助動詞には古くからあるものが多く、語形面でも、名付けの面でもきれいに分けるのがむずかしい。例えば、「ず」に「ば」の付く形は、「ずば」「ざれば」「ねば」の三つある。このうち、「ずば」は意味的には仮定だが、呼び名としては文語の未然形だと思われるし(配布データ中には存在しない)、「ざれば」は已然形といってよいと思うが、「ねば」には両様の使い途がある。また、「ますれば」というのはやや古めかしい言い方であるが、やはり両様に使いそうである。「ざる」は本来文語であるが、「ざるをえない」の形で口語にもしばしば用いられる。そのため、文語、口語の両方に同じ見出し、同じ語形が含まれる場合がある。
- 自立語の場合と違うのは、助動詞間の接続の順序がだいたい決まっているため、それが活用にも影響することである。そのため、存在しない部分は「—」で埋めてある。

- 活用形

- 口語動詞型

- 動詞における未然形3、4が未然形1に統合される他は、口語動詞と同じである。
- 未然形1(ナイ・ズ・レル・ラレルに接続)
- 未然形2(ウ・ヨウに接続)
- 連用形1(マスに接続)
- 連用形2(タに接続)
- 終止形
- 連体形
- 仮定形
- 命令形
- 語幹

- 文語動詞型

- 未然形(ズ・ル・ラル・ムに接続)
- 連用形(キ・ケリ・タリに接続)
- 終止形
- 連体形
- 已然形
- 命令形
- 語幹

○ 口語形容詞型

- 未然形
- 連用形1(中止)
- 連用形2(タに接続)
- 終止形
- 連体形
- 假定形
- 命令形
- 語幹

○ 文語形容詞型

- 未然形1(ズ・ムに接続)
- 未然形2(バに接続)
- 連用形1(中止)
- 連用形2(キ・ケリに接続)
- 終止形
- 連体形
- 已然形
- 命令形
- 語幹

● 注記

- タとダのように連濁によって出現形が変わったものは、同一見出しとしている。
- コーパス中出现しないものでも、データの拡張ということも考えて、日常見聞きする範囲のものは活用表に含めた。

例：教師にある/まじき/振舞い  
得/べかり/し収入

- 同語源であっても、文語と口語とでは、代表形が異なるのが普通であるが、「ず」の場合だけは例外的に同一である。

■ 助動詞(口語動詞型活用助動詞)

見出し語	未然形1	未然形2	連用形1	連用形2	終止形	連体形	假定形	命令形
せる	せ, さ	せ	せ, し	せ, し	せる	せる	せれ	せろ, せよ
させる	させ	させ	させ, さし	させ, さし	させる	させる	させれ	させろ, させよ
しめる	しめ	しめ	しめ	しめ	しめる	しめる	しめれ	しめよ
ず	---	---	---	---	ず	ず	---	---
さす	---	---	---	---	さす	さす	---	---
れる	れ	れ	れ	れ	れる	れる	れれ	れろ, れよ
られる	られ	られ	られ	られ	られる	られる	られれ	られろ, られよ
たがる	たがら	たがろ	たがり	たがっ[促音便]	たがる	たがる	たがれ	---
ます	ませ	ましよ	---	まし	ます, まする	ます, まする	ますれ	まし, ませ

見出し語	未然形1	未然形2	連用形1	連用形2	終止形	連体形	仮定形	命令形
んす	んせ	んしよ	――	んし	んす	んす	んすれ	んし, んせ
じゃ	――	じゃろ	――	じゃっ[促音便]	じゃ	――	――	――
だ	――	だろ	で, に	だっ[促音便]	だ	な	なら	――
です	――	でしょ	――	でし	です	です	――	――
どす	――	――	――	どし	どす	――	――	――
やす	やせ	やしよ	――	やし	やす	――	――	やす
はる	はら	――	はり	はっ[促音便]	はる	はる	――	はれ
ざます	――	――	――	ざまし	ざます	――	――	――
や	や	やろ	――	やっ[促音便]	や	――	――	――
ねん	――	――	――	――	ねん	――	――	――
ず	――	――	ず	――	ぬ, ん, ず	ぬ, ん, ざる	ね	――
た	――	たろ, だろ	――	――	た, だ	た, だ	たら, だら	――
う	――	――	――	――	う	う	――	――
よう	――	――	――	――	よう	――	――	――
てる	て, で	て, で	て, で	て, で	てる, てる	てる, てる	てれ, でれ	てろ, でろ
てらっしゃる	てらっしゃら, であっしゃら	――	てらっしゃい, であっしゃい	てらっしゃっ[促音便], であっしゃっ[促音便], であし	てらっしゃる, であっしゃる	てらっしゃる, であっしゃる	てらっしゃれ, であっしゃれ	てらっしゃい, であっしゃい
てく	てか, でか	てこ, でこ	てき, でき	てっ[促音便], でっ[促音便]	てく, でく	てく, でく	てけ, でけ	てけ, でけ
てける	てけ, でけ	――	てけ, でけ	てけ, でけ	てける, でける	てける, でける	てけれ, でけれ	――
とく	とか, どか	とこ, どこ	とき, でき	とい[イ音便], どい[イ音便]	とく, どく	とく, どく	とけ, どけ	とけ, どけ
とける	とけ, どけ	――	とけ, どけ	とけ, どけ	とける, どける	とける, どける	とけれ, どけれ	――
とる	とら, だら	とろ, だろ	とり, どり	とっ[促音便], だっ[促音便]	とる, だる	とる, だる	とれ, だれ	とれ, だれ
ちまう	ちまわ, じまわ	ちまお, じまお	ちまい, じまい	ちまっ[促音便], じまっ[促音便]	ちまう, じまう	ちまう, じまう	ちまえ, じまえ	ちまえ, じまえ
ちやう	ちやわ, じやわ	ちやお, じやお	ちやい, じやい	ちやっ[促音便], じやっ[促音便]	ちやう, じやう	ちやう, じやう	ちやえ, じやえ	ちやえ, じやえ
たげる	たげ	たげ	たげ	たげ	たげる	たげる	たげれ	たげろ
たる	たら	たろ	――	たっ[促音便]	たる	たる	たれ	たれ, たり
ちやる	――	ちやろ	――	――	ちやる	ちやる	ちやれ	ちやれ
つう	――	――	――	つっ[促音便], つっつ[促音便], ちゅっ[促音便], つちゅっ[促音便]	つう, つつう, ちゅう, つちゅう, てえ, ってえ	つう, つつう, ちゅう, つちゅう, て	ちや, つちや	――

見出し語	未然形1	未然形2	連用形1	連用形2	終止形	連体形	假定形	命令形
しゃる	しゃら, つしゃら	---	しゃり, つしゃり	しゃつ[促音便], つしゃつ[促音便]	しゃる, つしゃる	しゃる, つしゃる	しゃれ, つしゃれ	しゃれ, つしゃれ

■ 助動詞(文語動詞型助動詞)

見出し語	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
む	---	---	む, ん	む, ん	め	---
らむ	---	---	らむ, らん	らむ, らん	らめ	---
うず	---	---	うず	うずる	うずれ	---
めり	---	---	めり	める	めれ	---
べらなり	---	---	べらなり	べらなる	べらなれ	---
き	せ	---	き	し	しか	---
けり	---	---	けり	ける	けれ	---
つ	て	て	つ	つる	つれ	てよ
ぬ	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね
り	---	---	り	る	れ	---
なり	なら	に, なり	なり	なる	なれ	なれ
たり	たら	と, たり	たり	たる	たれ	たれ
る	れ	れ	る	るる	るれ	れよ
らる	られ	られ	らる	らるる	らるれ	られよ
しむ	しめ	しめ	しむ	しむる	しむれ	しめよ

■ 助動詞(口語形容詞型活用助動詞)

見出し語	未然形	連用形1	連用形2	終止形	連体形	假定形	命令形
たい	たかる	たく, とう[ウ音便]	たかつ[促音便]	たい	たい	たけれ	---
ない	なかる	なく	なかつ[促音便]	ない	ない	なけれ	---
らしい	らしかる	らしく, らしゅう[ウ音便]	らしかつ[促音便]	らしい	らしい	らしけれ	---
まい	---	---	---	まい	まい	---	---

■ 助動詞(文語形容詞型助動詞)

見出し語	未然形1	未然形2	連用形1	連用形2	終止形	連体形	已然形	命令形
たし	たから	たく	たく	たかり	たし	たき	たけれ	---
べし	べから	---	べく	べかり	べし	べき	べけれ	---
ごとし	---	---	ごとく	---	ごとし	ごとき	---	---
らし	らしから	---	---	---	らし	らしき	---	---
まじ	---	---	まじく	---	まじ	まじき	まじけれ	---
じ	---	---	---	---	じ	じ	じ	---
ず	ざら	ず	ず	ざり	ず	ざる	ざれ, ね	---



### 3.3 データ形式

DVD に同梱した活用表は、XML 形式で記述している。「力行五段1」の例を次に示す。

```
<conj pos="動詞" style="口語" name="五段" column="力行1">
  <form name="未然形1"><f_item>か</f_item></form>
  <form name="未然形2"><f_item>こ</f_item></form>
  <form name="未然形3"><f_item>か</f_item></form>
  <form name="未然形4"><f_item>か</f_item></form>
  <form name="連用形1"><f_item>き</f_item></form>
  <form name="連用形2"><f_item sound_change="イ音便">い</f_item></form>
  <form name="終止形"><f_item><</f_item></form>
  <form name="連体形"><f_item><</f_item></form>
  <form name="假定形"><f_item>け</f_item></form>
  <form name="命令形"><f_item>け</f_item></form>
  <example><e_item>書く</e_item><e_item>動く</e_item></example>
</conj>
```

活用表の XML 文書の形式は、次の DTD で定義される。説明は、DTD 中のコメントとして示す。

#### 活用表(conjtable 要素)

```
<!ELEMENT conjtable (conj)+>
<!--
%% version 活用表のバージョン情報
%% name 活用表の名称
%% release_date リリース日の情報
-->
<!ATTLIST conjtable
  version CDATA #REQUIRED
  name CDATA #REQUIRED
  release_date CDATA #REQUIRED
>
```

#### 活用型(conj 要素)

```
<!ELEMENT conj ((form+), example?)>
<!--
%% pos 品詞
%% style 口語、文語の別
%% name 活用型の名称
%% column 活用行
-->
<!ATTLIST conj
  pos CDATA #REQUIRED
  style CDATA #REQUIRED
  name CDATA #REQUIRED
  column CDATA #IMPLIED
>
```

#### 活用形(form 要素)

```
<!ELEMENT form (f_item)*>
<!--
%% name 活用形の名称
-->
```

```
-->
<!ATTLIST      form
              name          CDATA  #REQUIRED
>

<!-- 一つの語形 -->
<!ELEMENT      f_item (#PCDATA|base)*>
<!--
%% sound_change  音便の情報
-->
<!ATTLIST      f_item
              sound_change  CDATA  #IMPLIED
>
```

↑

### 語例(example 要素)

```
<!ELEMENT      example (e_item)+>

<!-- 一つの語例 -->
<!ELEMENT      e_item (#PCDATA)*>
```

↑

### 語幹(base 要素)

```
<!-- 語幹
%%
%% 活用表に記述される語幹を表す。
%% ただし、助動詞は除く。
%% 3.2 の活用表では、() で示している。
%%
-->
<!ELEMENT      base (#PCDATA)*>
```